



郷土史

ていね

第 41 号

平成 23 年 5 月 11 日
手稲郷土史研究会会報

定期総会・懇親会開催

● 定期総会

4月13日には、定期総会と懇親会が行われました。

総会は、國井和男会長の挨拶のあと、平成21年度の事業報告、収支決算報告、平成22年度の事業計画、役員選任などの案件について審議され、可決されました。詳細については、「定期総会議案書」をご覧ください。

◆ 國井和夫会長挨拶

今年は、第6回目の定期総会を迎えることになります。

この1年間を振り返ってみますと、この手稲区の区制20周年に合わせて、「手稲歴史年表」と「手稲鉱山のあらまし」という研究



成果を発表刊行いたしました。この歴史年表の方は、非常に評判がよくて、700部印刷したのですが、会員の皆様はもとより、区の方でも沢山お買い上げいただき、新聞にも出たことから、沢山の申込みがありまして、忽ち売り切れそうになりました。あと20部しかございません。この販売結果については議案書5ページの「手稲歴史年表収支決算書」の通りです。その収支残金は一般会計へ繰り入れることにしまして、少しゆとりのある今年度の予算になろうかと思われま

す。昨年、月例の勉強会は、外部からの先生方をお迎えし、また、会員の研究発表と合わせて活発に行われました。会報も40号になりました。これも皆様のいろいろなご協力、ご努力のお陰でございます。

新年度は、この1年間に鬼籍に入られた方もおられまして、私たちはその方々の思いを受け止めて勉強に励みたいと思います。議案に記されておりますように、1年間の月例の研究報告が計画さ

れております。その他に、会発足5周年の記念行事として、伊達方面の一泊ツアーを予定しております。また、新しい試みですが、北海道を測量された伊能忠敬の展示会を手稲に誘致するという事を役員会で決めております。展示する地図は大きなもので、床に敷かれた地図の上を歩きながら見るというものです。この研究会が誘致するに相応しいものと考えております。生徒さんも含めて、区民の皆さんにぜひ見ていただきたいと思ひまして、役員会で決めたところでございます。この行事には一ノ宮さんを委員長として実行委員会を結成しております。このように研究会は新年度に向けて新しい事業計画を立てております。

この研究会は、これまでのように楽しく、気軽に発表するという事を続けてまいりたいと思ひますので、新しい年度におきましても、皆様のご支援、ご協力をたまわりますようお願いいたしまして、ご挨拶といたします。

◆ 「伊能忠敬大図展」について（実行委員会委員長一ノ宮博昭氏）

「伊能忠敬大図展」について概略申し上げます。この地図を床に広げますと14m×18mの広さが確保できなければこの展示会を開催することができません。当初、手稲のど真ん中である区民センターで開催したいものとの目論見で主催者と交渉していたのですが、区民センターでは狭くてダメということで、今のところ手稲コミュニティーセンター体育館を会場とするということで話し合いを進めているところです。私は豊平での展示会を見学しましたが、チョンマゲと草鞋で、よくぞこれほど正確な北海道を再現できたものだと、たまげるばかりでした。伊能忠敬は知床半島から野付水道の付近は歩いておりませんので、この辺は空白になっております。この石狩周辺ですが小樽海という記述が1つあるだけで札幌も登場していない時代の地図であります。この地図の展示会には当時江戸幕府が作った蝦夷地という奇想天外な地図が合わせて展示されることになっています。展示物は、歴史にあまり興味の無い私でもドキドキするようなものですが、運営費用の捻出に難航しております。大変あつかましくて申し訳ないのですが、この後懇親会に移りましたら、ワンコイン（500円）のご寄付をいただきに箱をもってまいりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。

次回の予定

次回（6月8日）は、前田森林公園凹凸クラブ代表石田哲也氏の講演「前田森林公園凹凸クラブの活動」、中村恭治氏の会員発表「送毛 尻苗村（増毛村）よもやま話」を聴講する予定です。

… 会場案内…

会場は、次回も「第1会議室」（2階）になります。

● 懇親会

懇親会には手稲区市民部長高田英基氏、手稲区連合町内会連絡協議会会長今枝健氏、まちづくり推進係長榊原直志氏にもご出席をいただき、盛会裏に終わりました。

◆ 開会挨拶（一ノ宮博昭副会長）

ご案内のように、役所の方から市民部長とまちづくり推進係長のお二人にご出席いただきました。また、財源のもとになっている手稲区連合町内会から、連絡協議会会長の今枝さんにもご出席いただいております。後ほど、ご挨拶をいただきたいと存じます。

先ほど審議いただきましたが、新年度は大変盛り沢山の行事が控えているようですが、よろしく願い申し上げます。

◆ 手稲区市民部長高田英基氏挨拶

本日は、お招きいただきまして誠にありがとうございます。

本来であれば部長が来てご挨拶しなければならないのですが、所用がありまして出席できませんでした。代わりに私から一言ご挨拶させていただきます。

4月1日付けでこちらにまいりました。それまでは観光課で仕事をしておりました。手稲区は初めてでございますし市民部の仕事をするのも初めてでございます。いろいろなことを皆様に教えていただきながら、務めてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

手稲郷土史研究会の皆様におかれましては、國井会長あるいは役員および会員の皆様が、手稲の歴史にまつわる様々なテーマについて熱心な研究を続け、またそれに関わる活動を通じて手稲の街づくりに貢献していただいておりますことに、深く敬意を表したいと思います。

手稲では「ふるさとていね歴史発見事業」という小学校などで指導する歴史関連資料のデータベース化とそのホームページでの公表・公開、「手稲区歴史ガイドマップ」の制作などを行っているところですが、これらの作業にあたっては、郷土史研究会の絶大なご支援があつてはじめてできるものと考えております。あらためまして深く感謝申し上げます。

手稲は、遺跡や碑など、その他歴史的に興味を引くものを数多く持つところだと思います。こういった歴史を次の世代の方々に伝えていくことが大切な事ではないかと思っております。そういう点では、郷土史研究会の活動というのは手稲の歴史を伝え続けていくうえで重要なものだと考えております。手稲区としましても皆様の一層のご活躍を心からお祈りいたしますと共に、引き続き私共と一緒に手稲区の街づくりにご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、郷土史研究会と会員の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

◆ 手稲区連合町内会連絡協議会会長今枝健氏挨拶



この度の東日本大震災によって被害を受けられました身内の方がおられましたら心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興をこころからお祈り申し上げます。

この度は、郷土史研究会の懇親会にお招きいただきましてありがとうございます。

手稲郷土史研究会は平成17年9月に創立以来、50人以上の会員を擁する大きな団体に発展されました。今後も活発に活動されて、手稲の街づくりに寄与されることを念じてやみません。

皆様方もご存じのように、国の調査結果によりますと少子高齢化が進んでいるというデータが出てまいりました。こうした時代にこそ区民と行政がお互いに手を携え、深甚の会話を積み重ねながら魅力ある手稲の街づくりを進める必要があると私は考えております。

最後に、会員の皆様の益々のご活躍と郷土史研究会のご発展、皆様方のご健康を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

◆ まちづくり推進係長榊原直志氏挨拶

4月1日から就任いたしました榊原です。

前任者および今の担当者から、郷土史研究会の皆様から多大なご尽力を賜ってきて、様々な事業が進んでいると伺っています。私もまだまだ勉強不足のところがございますが、いろいろと今後の事業を進めて行くうえで皆様方の力をお借りしながら進めてまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。



(文責：小田真二)